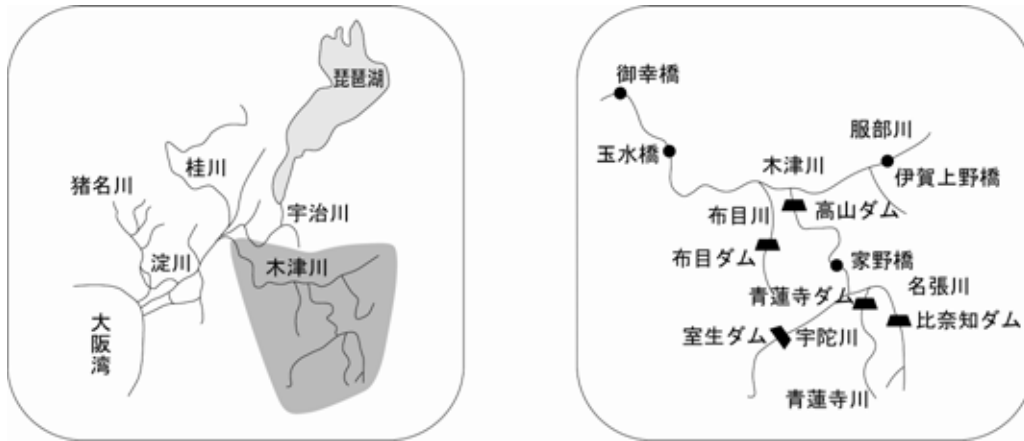


2. 木津川

木津川は、BODが平成4年度から平成8年度まで悪化傾向が見られたが、平成9年度以降改善傾向にある。上流のダム湖ではアオコや淡水赤潮の発生が確認されており、水質悪化の原因として、上流域での生活雑排水、畜産排水、ゴルフ場の開発などが考えられる。

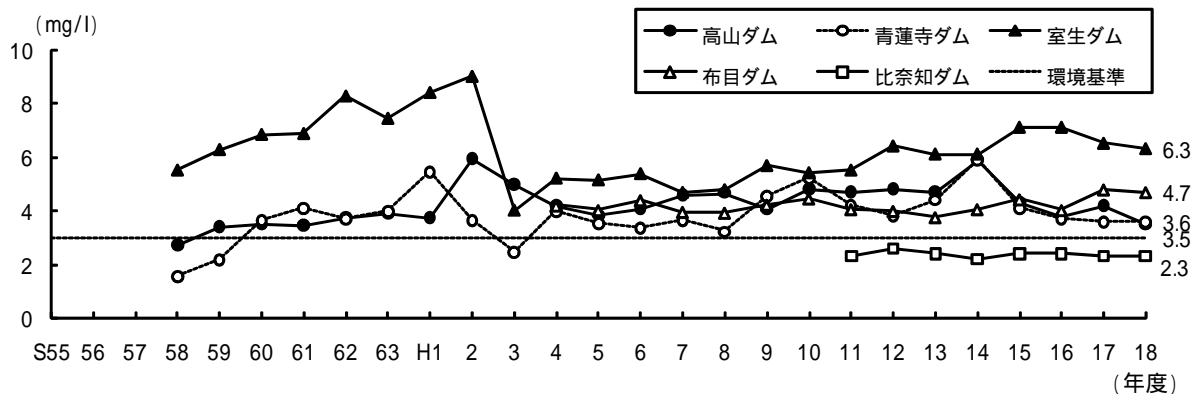


(1) 木津川上流のダム湖

平成18年度の5ダム湖の水質をみると、COD(75%値)は、室生ダムと高山ダムと布目ダムは前年度より減少し、それぞれ6.3mg/l, 3.5mg/l, 4.7mg/lであった。青蓮寺ダム及び比奈知ダムについては、前年度同じ値であった。

全窒素(年平均値)は、室生ダムと布目ダムと比奈知ダムで前年度より増加し、それぞれ3.72mg/l, 1.25mg/l, 0.70mg/lであった。高山ダムと青蓮寺ダムは前年度より減少し、1.46mg/lと0.88mg/lであった。

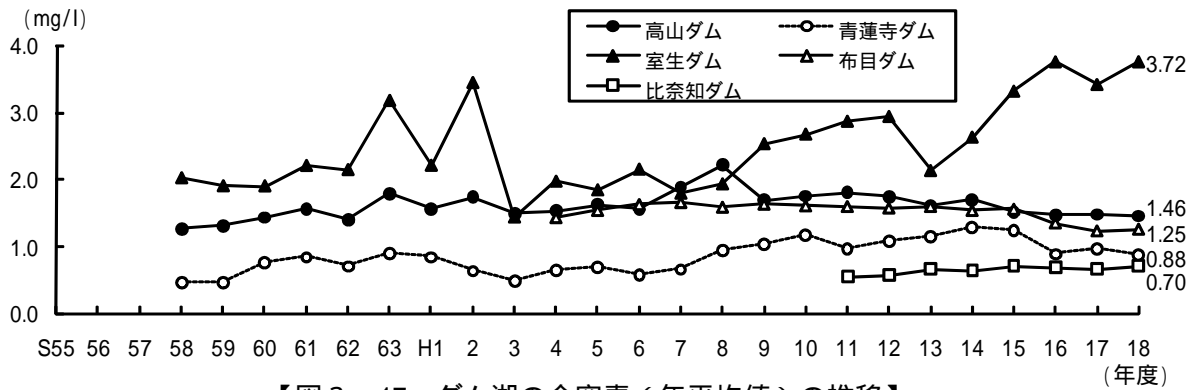
全リン(年平均値)は、高山ダムと布目ダムと室生ダムが前年度より増加し、それぞれ0.057mg/l, 0.038mg/l, 0.032mg/lであった。比奈知ダムは前年度と同じ0.012mg/lであった。青蓮寺ダムは前年度より減少し、0.011mg/lであった。



【図3-16 ダム湖のCOD(75%値)の推移】

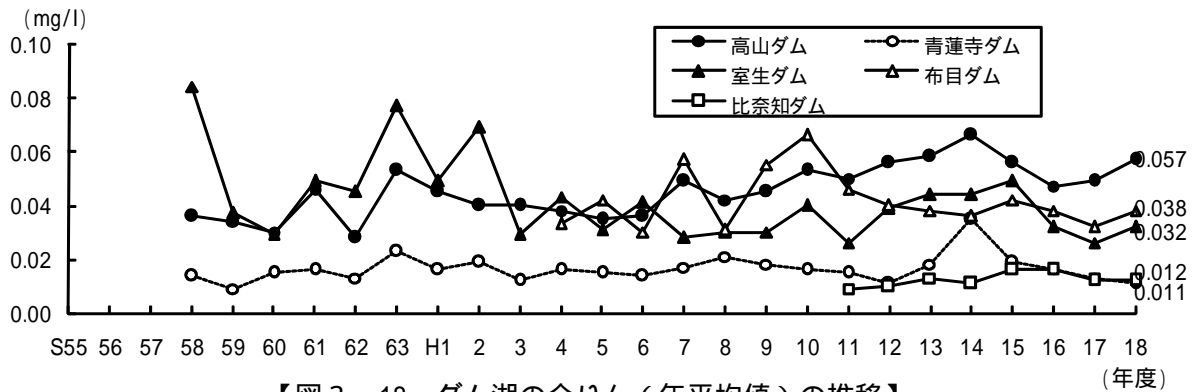
(環境基準は室生ダム・比奈知ダムのみ設定)

建設省河川局監修・日本河川協会編「1997日本河川水質年鑑」より作成
ただし、平成9~18年度については近畿地方整備局調べ
詳細は資料3-7を参照



【図3 - 17 ダム湖の全窒素（年平均値）の推移】

建設省河川局監修・日本河川協会編「1997日本河川水質年鑑」より作成
ただし、平成9～18年度については近畿地方整備局調べ 詳細は資料3 - 8を参照



【図3 - 18 ダム湖の全りん（年平均値）の推移】

建設省河川局監修・日本河川協会編「1997日本河川水質年鑑」より作成
ただし、平成9～18年度については近畿地方整備局調べ 詳細は資料3 - 9を参照

平成18年度は、青蓮寺ダム、布目ダムで淡水赤潮が発生し、青蓮寺ダム、室生ダムでアオコが発生した。また、異臭はどのダムでも発生しなかった。

【表3 - 1 ダム湖の富栄養化現象発生状況】

		(年度)																								
ダム名	種類	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	
高山ダム	淡水赤潮																									
	アオコ																									
	異臭																									
青蓮寺ダム	淡水赤潮																									
	アオコ																									
	異臭																									
室生ダム	淡水赤潮																									
	アオコ																									
	異臭																									
布目ダム	淡水赤潮																									
	アオコ																									
	異臭																									
比奈知ダム	淡水赤潮																									
	アオコ																									
	異臭																									

布目ダムは平成4年度から、比奈知ダムは平成12年度から調査開始

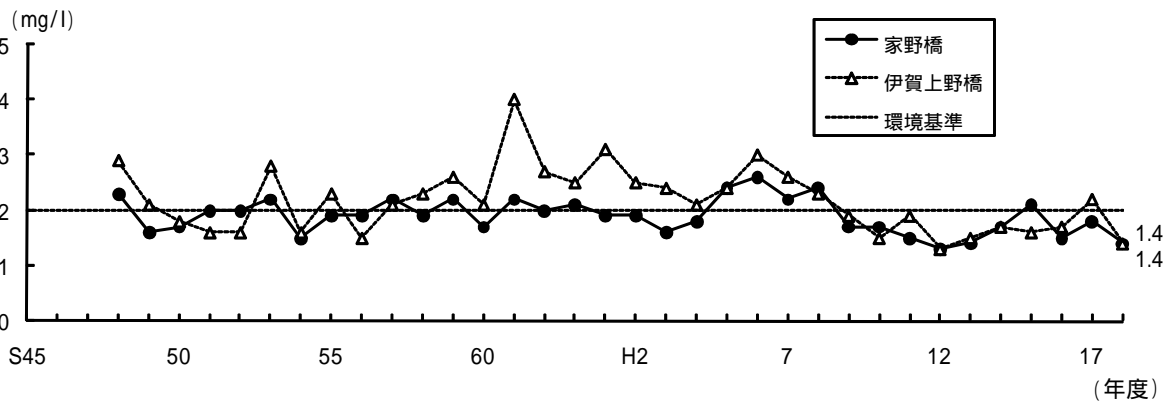
建設省河川局監修・日本河川協会編「1997日本河川水質年鑑」より作成
ただし、平成9～18年度については近畿地方整備局調べ

(2) 木津川上流の河川

大和高原北部の山間部を流下して木津川に至る上流河川は、アユの養殖などの内水面漁業に利用されているように比較的良好な水質であるが、一時期は悪化の傾向が見られたものの、平成9年度以降改善傾向にある。

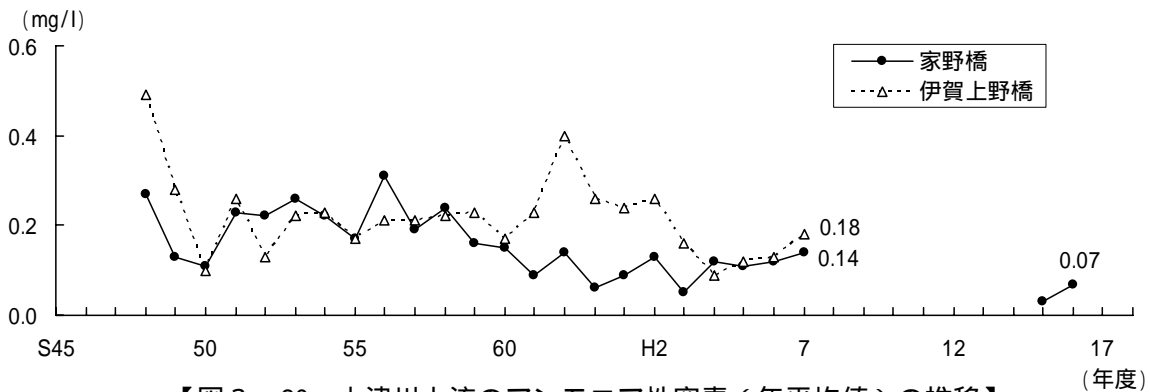
家野橋でのBOD（75%値）は平成3年度以降増加傾向を示していたが、平成9年度からは減少し、平成18年度は1.4mg/lと改善されている。伊賀上野橋では平成5年度以降減少傾向にあり、平成18年度は年平均値は1.4mg/lとなっている。いずれの地点でも環境基準値（2.0mg/l）を下回っている。

アンモニア性窒素は伊賀上野橋では昭和62年に0.40mg/lであったが、その後急速に改善され、平成7年度は0.18mg/lとなっている。家野橋では、昭和60年度以降0.03~0.15mg/lの範囲で横ばいで推移しており、平成16年度は0.07mg/lとなった。



【図3 - 19 木津川上流のBOD（75%値）の推移】

三重県環境白書より作成
詳細は資料3 - 10を参照



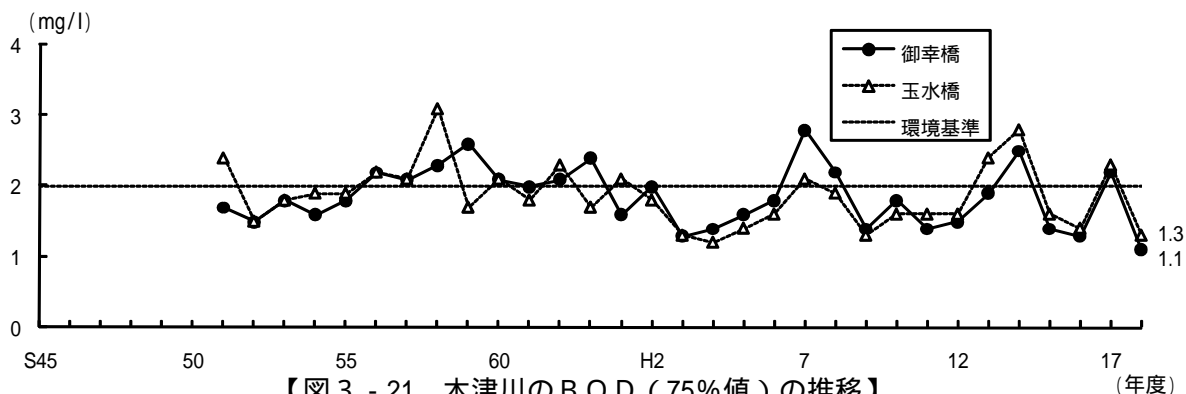
【図3 - 20 木津川上流のアンモニア性窒素（年平均値）の推移】

三重県「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成
詳細は資料3 - 11を参照

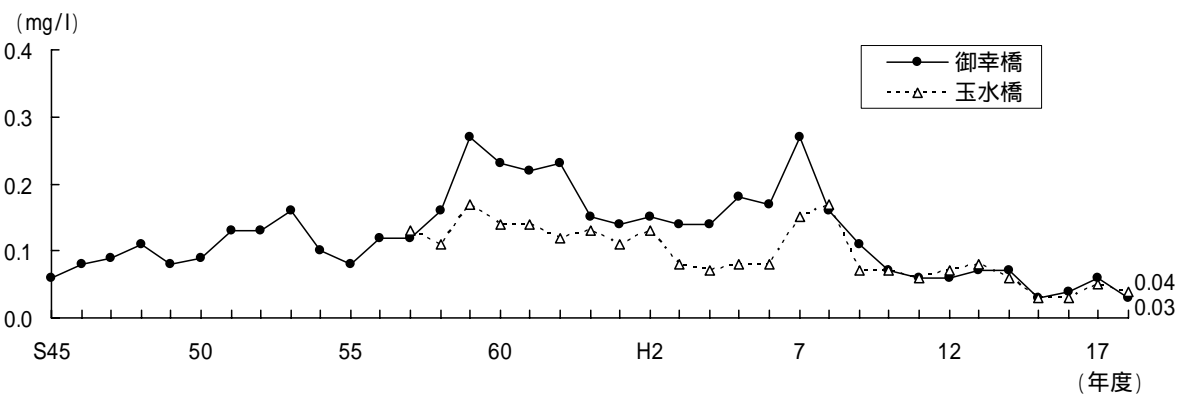
(3) 木津川

木津川御幸橋でのBOD(75%)は平成4年度以降増加し、平成7年度には2.0mg/lを超えた。その後増減を繰り返し、平成18年度は1.3mg/lであった。玉水橋でのBOD(75%)についても、同様に平成7年度には2.0mg/lを超え、その後増減を繰り返し、平成18年度は1.1mg/lであった。ともに環境基準値(2.0mg/l)を下回っている。

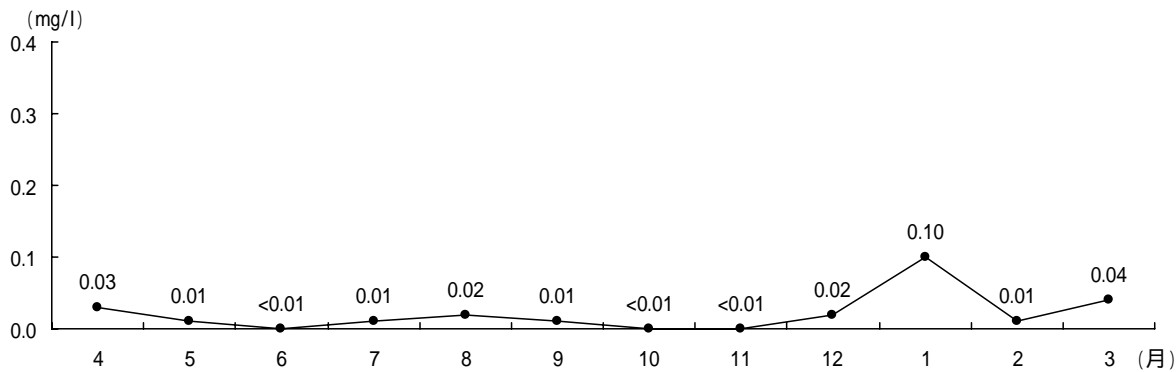
アンモニア性窒素は玉水橋では昭和59年度と平成8年度にピーク値を示したが、近年は減少傾向にあり、平成18年度は0.04mg/lであった。御幸橋では昭和59年度と平成7年度に0.27mg/lとピーク値を示したが、近年は減少傾向にあり平成18年度は0.03mg/lであった。アンモニア性窒素が改善されてきたのは下水処理場の整備などによるものと思われる。



【図3-21 木津川のBOD(75%値)の推移】
京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成 詳細は資料3-10を参照



【図3-22 木津川のアンモニア性窒素(年平均値)の推移】
京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成 詳細は資料3-11を参照



【図3-23 木津川(御幸橋)のアンモニア性窒素(平均値)の経月変化(平成18年度)】
京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成